

# KES エコロジカル ネットワーク

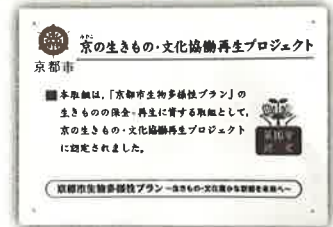
2014年に策定された「京都市生物多様性プラン」に基づき、京のアジェンダ21フォーラムが創設し、京都市内でも多くの企業や学校等が導入している環境マネジメントシステム「KES」の活動の中に生物多様性を取り入れて頂き、それをネットワーク化することを進めようとしています。

2017（平成29）年度の育成対象の植物はフタバアオイ、フジバカマ、ヒオウギ、キクタニギク、オミナエシ、カワラナデシコ、アヤメ、ワレモコウの8種類です。

## 2017（平成29）年度 京の生きもの・文化協働再生プロジェクト

京の生きもの・文化協働再生プロジェクト第16号の認定を受けました。

今回、新たにKESエコロジカルネットワークとしてアヤメとワレモコウの2種の育成活動が認定されました。それに伴い、アヤメとワレモコウを育成している企業14社に認定プレートを送付しました。



## 京の生きもの・文化協働再生プロジェクト第16号の認定を受けた植物

### アヤメ

アヤメ科の多年草。5月に紫と黄色の美しい花を咲かせます。よく似た花としてカキツバタ、ハナショウブが挙げられますがこちらは水の中で育つ水生なのに対し、アヤメは陸生です。



近年シカによる食害を受けており、京都府レッドデータブックでは準絶滅危惧種（2002年）から絶滅危惧種（2015年）に引き上げられました。

### ワレモコウ

バラ科の多年草。7～10月の秋に紅紫色の穂状の小さな花をつけます。わびさびを感じさせる姿や色合いから、茶花、生け花としてもよく使われます。根・根茎を天日乾燥させたものは、生薬となり、吐血、下痢、やけどなどの治療に用いられます。東アジア、シベリア、欧州に広く分布。京都周辺では、近年、自生地の丘陵などで見かけることが減っています。



## 第9回 守ろう古都の自然 <sup>ふじばかま</sup> 藤袴と和の花展

今年も藤袴と和の花展が9月23日から10月9日、梅小路公園で開催されます。

古から京都の人々に愛されてきたフジバカマと、環境の変化により身近で見られなくなってしまった秋の和の花たちが集められています。

KESエコロジカルネットからも希望のあった参加企業の育成したフジバカマを庭園内「水鏡」付近に展示します。是非お立ち寄りください。

梅小路公園にある日本庭園「朱雀の庭」をめぐりながら、約300鉢のフジバカマと、その他約160種300鉢におよぶ秋の和の花がつくる景色が楽しめます。

### フジバカマ

秋の七草のひとつに数えられるフジバカマはキク科の多年草。夏の終わりから秋のはじめにかけて、淡い薄紅色の花を咲かせます。9月海外に渡る蝶、アサギマダラが蜜を好み訪れることもあります。茎や葉は乾燥させると桜餅に似た香りがし、香料にも利用されます。京都レッドリスト（2015）で絶滅寸前種に分類されています。



今年も藤袴と和の花展が開催されています



「水鏡」で展示されるフジバカマ



優しい色をした花が咲きます



KESエコロジカルネットワークでの育成の取り組みをパネルで紹介しています